

専宗寺納骨堂 落成記念法要音楽祭

5月5日18時〜

新しい納骨堂の姿を考えて

納骨堂のイメージ

新納骨堂が完成して、たくさんの方が完成した姿を見に来られました。皆さんの多くが口にされるのは「前の納骨堂のイメージと違って怖さが無い」「明るくて開放的」といった言葉でした。目指した納骨堂の感想が聞けてほっとしています。

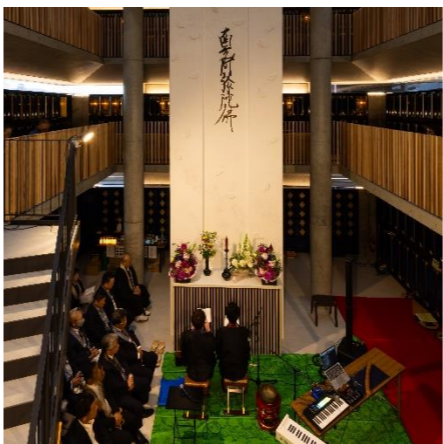
旧納骨堂は、「狭い」「暗い」「怖い」といったイメージがありました。このような感想は専宗寺に限らず、他のお寺や地域にある納骨堂にも言えることです。建設された当時からわりと最近まで、空間としての納骨堂のあり方はあまり重要視されていなかったのです。

そもそも、納骨堂は「暗い」「狭い」「怖い」

ものでなければならぬわけではありません。むしろ、遺族にとって大切な方のご遺骨を納めるのにふさわしい場所であるべきであると思えます。それが「明るく」「開放的」「安心」の納骨堂です。この姿はお経に説かれる阿弥陀如来の「極楽浄土」に共通します。

「極楽浄土」は、花咲き鳥が歌い、光に満ちあふれ、誰もが安心して心清らかに過ごす場所です。それだけではなく、浄土に生まれるものはたどころに仏さまとなり、煩惱により迷い恐れるものを救うためにはたらくと示されています。またそれが阿弥陀如来「南無阿弥陀仏」の願いそのものなのです。

プログラム
【式典の部】
おつとめ「重誓偈」
ご挨拶
【音楽祭の部】
明行寺住職夫妻「遇々」
『歌とご法話』
雅楽会「和雅音」
『越天楽』『舞楽蘭陵王』



納骨堂に「浄土」のイメージを

浄土の風景を説くお経の中に、「和雅音」という言葉があります。これは浄土の音楽を表し、聞くものの心を清らかにし仏のさとりと導く音であると説かれます。この度の「音楽祭」が阿弥陀如来の願力によって仏と成られた大切な方々と共に音楽を聴き心が安らぐ刻を過ごすようなご縁となったなら幸いです。

専宗寺再建 第2期工事

門徒会館・庫裏・駐車場の整備

2024年7月より、現門徒会館・庫裏が解体される計画となっております。

この度、篤信のご門徒様より専宗寺裏の竹林を専宗寺へご寄進いただきました。有効利用するべく検討と重ね、懸案でありました駐車場として利用させていただくこととなりました。駐車場は今年中に完成予定です。

第2期工事落成まで約1年を予定しております。

門徒会館・庫裏・駐車場完成予想平面図



新納骨堂のコンセプト

お経に説かれる極楽浄土のように

極楽浄土は、光に満ちあふれた安心でさる美しい光景と、そこに住むものは互いに敬い合う平等性が説かれています。堂内は、日中は自然光でとても明るいです。またご本尊は親鸞聖人のご真筆から頂戴し中央にご安置され、全てを普く照らす如来の光を表現し場所の善し悪しを感じにくく工夫されています。漆喰で塗られたご本尊の長壁は、浄土の天から散る花びらの情景が表現されていて、

壁面をよく見るとキラキラ光る雲母が浄土の優しい風のようにちりばめられています。ご本尊の前に立つと、如来を中心に、仏様となつたご先祖様方が参拝者を取り囲み寄り添われている様に感じて頂ければと思います。

